

さざなみ

須崎市教育研究所 発行
令和5年5月30日

第1回教育研究所運営委員会

5月23日(火)に令和5年度第1回目となる「教育研究所運営委員会」を実施しました。この会は教育研究所の諮問機関として置かれています。委員会は右の運営委員6名と教育長、課長、所長、指導主事、研究教諭で構成されています。今年度の委員長は浦ノ内中学校の西森大城校長が務めてくださることになりました。

今回は、教育研究所の事業計画の報告と教育支援センターの事業概要の説明を行いました。研究テーマは以下の通りになっています。

運営委員

吾桑小学校	日高輝男校長
新荘小学校	西原浩二校長
浦ノ内中学校	西森大城校長
朝ヶ丘中学校	濱口恭男教頭
南小学校	前田裕史教頭
安和小学校	矢野文教頭

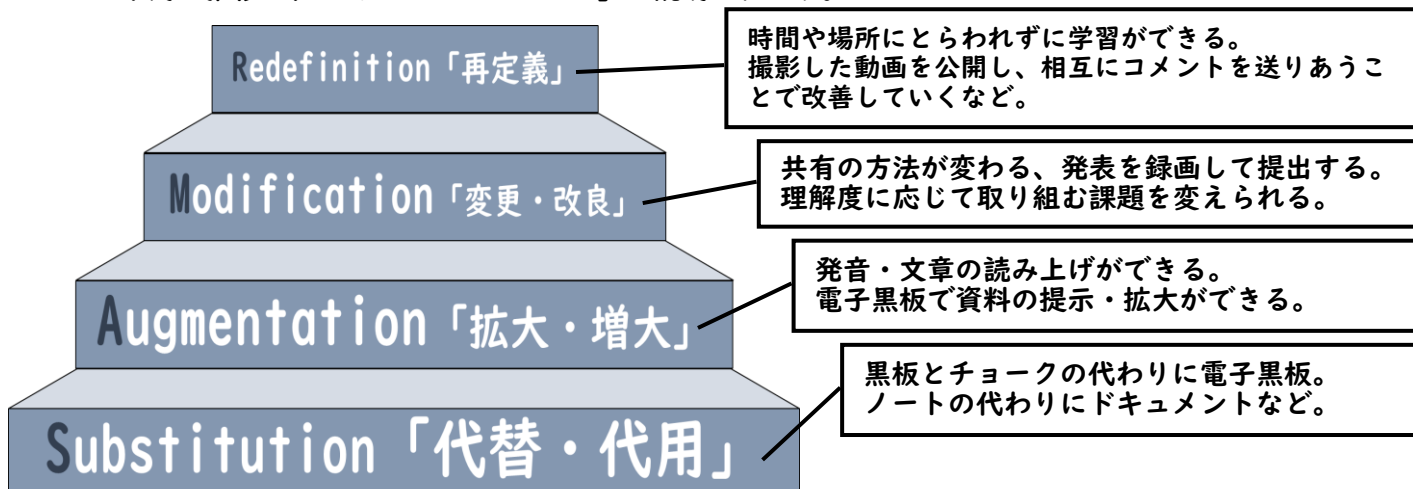
研究テーマ

- (1) 児童生徒の主体性を引き出す手段としての効果的なICTの活用方法の研究
- (2) 数学科の授業を通したプログラミング的思考力を高める研究
- (3) 不登校・不登校傾向の児童生徒に係る諸問題の改善

協議ではICTの活用に触れました。現状、教科や学級によって活用の頻度に差があることが挙げられ、どのようにすれば学校でICTを効果的に活用できるようになるかが議論されました。その中では「先生が使えなくても生徒が使えたらいいからとにかく使わせてほしい」とアドバイスを受けたこともある、というお話も出ていました。

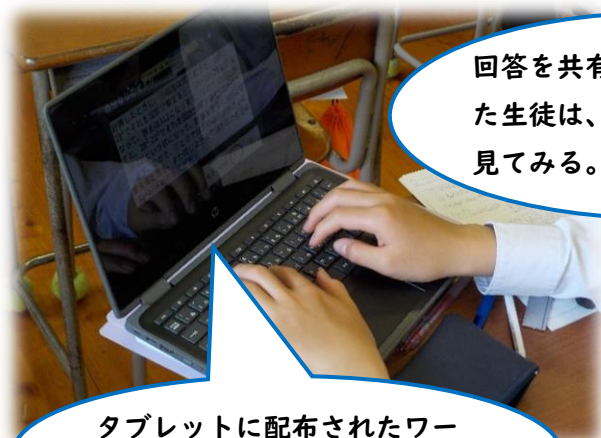
また使っているツールについても話題に上がりました。例えば情報を共有するためのツールとしてはGoogleのジャムボード、ロイロノート、ミライシードのムーブノートなどがあると思いますが、それぞれに良さがあります。「教材によってどのツールが適しているか考え、その情報を共有して使っています。」と吾桑小学校の日高校長。「小学校段階では、色々なものに触れさせることが大切だと思う。」とも仰っていました。

ICT活用の推移は、よく「SAMRモデル」で説明されます。



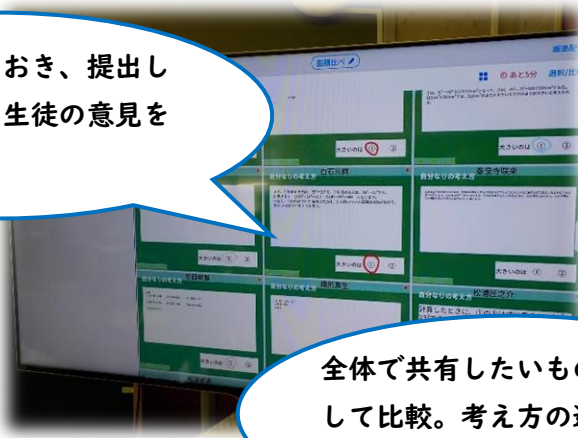
今現在、皆さんはどの段階にいらっしゃいますか。一足飛びにはいかないこともありますが、ICTの活用についてはすべてが段階的に進むわけではなく、飛躍した挑戦が必要な場合もあると思います。私たちが児童生徒に求めるように、私たち教員も失敗を恐れずに「まずはやってみる」ということが大切なのではないでしょうか。

ICTのとびら



回答を共有しておき、提出した生徒は、他の生徒の意見を見える。

タブレットに配布されたワークシートに生徒が直接入力



全体で共有したいものを選択して比較。考え方の違いをみんなで考える。



基本的な使い方ですが、これにより「配布・回収・共有」のスピードが格段に上がります。また、いいな、と思った考えはコピーして自分の考えに付け足すことも容易にできます。編集が容易なので、「アイデアをたくさん書く」「下書きを書く」「書いたものを後でそのまま活用する」というときには、ぜひ活用してみてください！

高知県教育研究所春季連絡協議会

5月24日の連絡協議会の内容を共有いたします。講師として来られていたのは桃山学院教育大学の松久眞実さんです。演題は「安心して過ごせる居心地のよいクラスとは～不登校を中心に～」で、様々な角度から不登校の原因を分析し、それぞれに対する対応をお話いただきました。

中でも印象に残ったのは不登校になった際にはしてはいけないことです。

- ・自分の考えを押し付けること・・・「このままじゃ高校に行けないよ」「今からならまだ勉強にも追いつけるよ」「今休んだら余計に行きにくくなるよ」など
 - ・理由を問い詰める・・・本人もなぜそうなっているのか認識できていない場合もある。何とか答えなくては、といういろいろなところから理由を引っ張ってくるようになる。
 - ・良い変化で大喜び・・・行けていなかった頃の自分を余計に許せなくなる。逆に追い込んでしまう。
- お話の中では、学級経営についても触れられていました。

秩序フェーズ

育成フェーズ

成長フェーズ

学級内の秩序をつくり、子ども同士をつなげるようにする中で児童生徒主体にしていき、やがて子どもの自主性に任せられるようにしていく、という考え方でした。

また、保護者の方が不登校・不登校傾向になっている子どもたちにどのようにかかわっていけばよいのか、という内容のお話もありました。お時間さえあれば、現場で学級に直接かかわっている先生方や家庭で子どもたちに直接かかわっている保護者の方々にも聞いていただきたい内容でした。